

第9回 J I A・デスクチャレンジ設計コンペ
コンペ審査委員によるテーマ検討座談会

実行委員会（司会）

前年と同様にテーマ、課題文に関してテーマを読み解くヒントとして課題を掘り下げてみたいと思います。

テーマ決定までの流れは、まずキーワードの中に時間的要素がほしいね、というところから始まりました。過去のテーマに熱や音はありましたが光は無かったのと、地域などを限定したものはありましたが、季節を限定したものはありませんでした。これを踏まえて総合的に冬・光・空間を結びつけたテーマがいいかもしれないということになり、それに対して「過ごす」という動詞を付け加えることで、動きや生活観をもとめるテーマとしました。

応募者の方には暮らし・活動など魅力的な時間空間を表現してほしいと思っています。



菊田) 「冬」や「光」の言葉が強すぎるので現象だけを捉えるのではなく、過ごす上での用途と生活・行動行為までも創造した案がほしいですね。現象と行為がバランスよく提案されている案がほしいところです。

司会) 今回は空間の用途を限定するのではなく、光の現象を大きく膨らませてそこから「過ごす」空間をイメージしてほしいですね。

下村) 「過ごす」にはかならず時間の経過がついてまわっている言葉なので、どんな時間を過ごすにしても答えがたくさんある反面、広がりすぎること審査基準が難しくなりますね。

菊田) 評価軸をどこにおくか、例えば家族なのか他人なのかで一瞬にして意味が変わってしまうので、少し用途を限定したほうがよいかもしれないですね。

司会) 「過ごす」が案をフューチャーするキーワードになるような気がします。ちなみに辞書的な意味で「過ごす」は：月日を送る。暮らす。何かをして時間を費やす、など。

毎回感じるのは起承転結や5W1Hが明快になっていない案があると評価に困るときが多いですね。

丹) テーマの光や冬のことばのイメージを広げた上でそれを繋ぎ合わせていくようにすると考えやすいかも。

下村) 一つ一つのことばから連想される他に、「冬の光」からイメージされるものをきっかけとして考える方法もありますね。例えば温度、波長（赤外線）などから光をとらえたり、冬の光ってなんだと考えていただき、広げてほしいですね。

司会) 冬の光ってどんな光をイメージするのでしょうか？
夏の光とどう違うのか？

下村) 冬と夏の光の違いから掘り下げると、冬であれば雪・氷・短い時間など。光であれば、暖炉・月の照らす雪明りなど以外にこのコンペのキーワードから色々導きだせるとは思います、あまり拡散しすぎて標準を絞れないと難しい。

丹) 冬の光の言葉から、まず庇の長さで太陽の角度を調整することをイメージしました。とても重要なことですがアイデアコンペなので、審査員が期待する変化球を投げてきてほしいですね。

司会) 冬の光であれば、雪に反射する光とかあると思うんですが、その他例えばどんなことがありますか？

菊田) 例えば、冬は圧倒的に光の量、時間が短いので、それを逆手にとって暗さを楽しむとか、むしろ明るくてできない物事を楽しむようなことは無いのか？ そんな時間を楽しむ案が出るといいですね。例えばノルウェーなんか、ある時期は極夜で暗い中でも時間を楽しむ方法を持っているのだから、そんなことから掘り下げることもできるよね。

司会) 北欧の礼拝堂とかふと浮かびますね

丹) 実際に設計をする実務者は冬を意識して設計することってあるのでしょうか？

下村) ありますね。最初、種になるキーワードから色々なイメージを描き、肉づけを行ったりして建築の個性を出そうとします。今回は冬、光、過ごす、空間という面白いキーワードがすでにあるので、更にもう少し掘り下げたキーワードを見つけられるとさらに面白いかと思うのだけど。あまり座談会で言いすぎちゃたらまずいかな？（笑）
テスクコンペだから環境を意識して作品を出してほしいけれど、環境ってすごく広がるから、工学的に捉えるべきなのかとか悩むよね。

丹) テスクコンペは目的として環境的な感性を育てるということが入っていますので、毎年のテーマの中に「環境」を含めていますが、意味がすごく広いので取り組みが難しいと感じるかもしれません。

小倉) 去年は審査員の方々の期待した方向とは異なった作品が多かったと聞きましたが、審査員が想定した方向性だけに偏るのは良くないと思います。アイデアコンペなので、良い意味で期待を裏切る様々な作品が出てきて良いと思います。ただし、テスクらしい環境を意識した案ではあってほしいですね。今年のコンペのコンセプトは冬の光と過ごす空間だから、どの辺を見据えて作品を出すかがキーになりますよね。私が冬の光と過ごす空間って聞いた時小樽の雪明りをふと思い描いたし、描くイメージって皆違うのではないかな。

下村) 僕にとっては冬の光はマイナスイメージなんだけど、暗いし、弱々しい、夜が長いって感じで、そういう中で自分はそんな弱い光をどう楽しむか？

例えば僕は冬の光だと薪ストーブの光が思い描かれる。人によって色々な冬の光のイメージがあるから今回は難しいテーマかも知れないけれど面白いよね。

小倉) 本州からお客さんをエスコートすると、雪が汚いものを覆い白い雪が背景となって光ことでモノトーンに見えたりするので北海道の冬はきれいだって言うのでしょうか。

司会) 話を少し工学的な視点で考えると光ってどういうものなのでしょう？

下村) 明るさ・熱・波長、、、反射、、、。

菊田) 色もありますね。

司会) 光と季節って意外に密接にかかわっていますよね。

菊田) 波長から考えると短波長から長波長まである中で、冬の

外の波長は短い波長のイメージがあるし、室内に来ると暖かい長波長のイメージを思い浮かびますよね。夏なんて尖ったイメージの短波長だし、だからそんな波長を利用しながら空間を作るっていうのも面白そうですね。

下村) さすが工学的で面白い視点ですね。

小倉) 言われてみると確かに光って、色といわれると納得できませんね。

下村) 暖色や寒色っていう言葉もある様に、暖色は火を、寒色は海を思い浮かべるように、人が生まれもっているものでもあるし進化してきた DNA で必然的にイメージするのだと思います。

菊田) 過ごす空間もすごく大事だから、工学的な現象だけではアプローチせずに、空間と共にそこでいかに魅力的な時間を過ごすかを提案してほしいよね

司会) 最後に審査員の方々から一言ずつお願いします。

下村) 冬の光は弱く、明るくない、そんな光を大事に生活する知恵が必要だから、暗くなりがちな冬の生活を明るく豊かな空間にしてみらえるような提案してほしいなあ。

小倉) 自由な発想で提案してほしいですね。個人的には建築の内部空間だけではなくて外部空間、例えば都市や街並みなどの視点からも提案してほしいですね。

丹) やっぱり審査員がニヤリとするような考えもつかない視点から提案してほしいし、そこで笑顔になれるような豊かな空間を望みます。

菊田) 過ごすということがキーワードに入っているので、当然環境工学的な視点も見られるけれど 過ごすプラス環境工学的な現象、例えば一時的な光ではなく変化する光などの時間的な部分も表現できれば楽しいと思います。

下村) 審査委員のみんなの言ったことが全部含まれていたら最優秀間違いありませんね（笑）

全員) （笑）